

# 地域における飲食業の動向調査報告書

平成 28 年 7 月



下野市商工会

**【作成・監修】**

〒 329-0403

栃木県下野市医大前 4-5-1

中小企業診断士 笹川 嘉洋

当地域における飲食業の動向調査 報告書  
～結果ならびに評価～

1. 調査の概要

(1) 調査対象事業者件数

① 飲食店	45 件
② 飲食料品小売店	20 件
計	65 件

(2) 調査方法

商工会職員による訪問留置調査

(3) 調査時期

平成 28 年 6 月

(4) 調査対象期間

平成 25 年 1 月から平成 28 年 12 月まで

- ① 「前期」・・・平成 26 年 1 月から平成 26 年 12 月まで
- ② 「当期」・・・平成 27 年 1 月から平成 27 年 12 月まで
- ③ 「来期」・・・平成 28 年 1 月から平成 28 年 12 月まで

(5) 有効回答数 (率)

① 飲食店	36 件	(80.0%)
② 飲食料品小売店	15 件	(75.0%)
計	51 件	(78.5%)

(6) 調査のポイント

① 調査の背景

- ・ 小規模事業者の経営状況分析ならびに事業計画策定に資する指標を提供するための当商工会による独自調査。

② 調査の主な目的

- i. 地域の小規模事業者（飲食店、飲食料品小売店）を取り巻く外部環境の把握
- ii. 地域と事業者の課題の可視化

③ 調査項目とそれらの主旨

i. 外部環境の把握

損益計算書を念頭に、外部環境の把握に関係する以下の項目・費目について、直近 2 期の実績および今期の見通しを、当該期の前の期との増減比較として聴取した。

対象項目・費目 : 客数 (リピーター数、新規客数)  
 原価単価  
 人件費 (従業員数、パート・アルバイト)  
 販売管理費  
 資金繰り (難易度)

ii. 事業者の課題の可視化

損益計算書を念頭に、事業者の課題の可視化に係る以下の項目・費目について、直近 2 期の実績および今期の見通しを、当該期の前の期との増減比較として聴取した。

加えて、対応期間における設備投資、事業者自身が認識している経営課題についても聴取した。

対象項目・費目 : 売上  
 経常利益  
 貴社の業況  
 設備投資  
 経営上の重要な課題

2. 調査結果

(1) 「外部環境の把握」に資する項目・費目について

消費マインドが依然として低迷を続ける中、人手不足や原材料の値上がり傾向等の「外部環境」の動向に留意する必要がある。

① 客数

- ・ 3 期連続で客数が増加した飲食店は 6 社 (16.7%)、小売店は 5 社 (33.3%) 社であった。
- ・ 一方、3 期連続で客数が減少した飲食店は 12 社 (33.3%)、小売店は 4 社 (26.7%) であった。
- ・ なお、これらの 3 期連続で客数が増加した飲食店 6 社のうちの 5 社 (83.3%) および小売店 5 社のうち 5 社 (100.0%) の新規顧客は 3 期連続で増加している。

	増加	不変	減少	凸凹	計
飲食店	6	9	12	9	36
	16.7%	25.0%	33.3%	25.0%	100.0%
小売店	5	4	4	2	15
	33.3%	26.7%	26.7%	13.3%	100.0%

② 原価単価

- ・3期連続で原価単価が上昇した飲食店は15社(41.7%)、小売店は12社(80.0%)社であった。

	上昇	不変	低下	凸凹	計
飲食店	15	10	2	9	36
	41.7%	27.8%	5.6%	25.0%	100.0%
小売店	12	0	0	3	15
	80.0%	0.0%	0.0%	20.0%	100.0%

- ・この内、3期連続で仕入れ先数が不変であった飲食店は12社(80.0%)、小売店は7社(58.3%)であった。

③ 人件費

- ・3期連続で人件費が増加した飲食店は9社(25.0%)、小売店は4社(26.7%)社であった。

	増加	不変	減少	凸凹	計
飲食店	9	19	3	5	36
	25.0%	52.8%	8.3%	13.9%	100.0%
小売店	4	8	0	3	15
	26.7%	53.3%	0.0%	20.0%	100.0%

- ・この内、3期連続で従業員数が増加した飲食店は2社(5.6%)、小売店は0社(0.0%)であった。
- ・なお、これらの飲食店9社 および小売店4社のうち、「客数」が3期連続で増加している事業者は飲食店で4社(11.1%)、小売店で3社(75.0%)、「新規客数」が3期連続で増加している事業者は飲食店で2社(22.2%)、小売店で3社(75.0%)である。

④ 販売管理費

- ・3期連続で販売管理費(除く 人件費)が増加した飲食店は8社(22.2%)、小売店は1社(6.7%)社であった。
- ・この内、家賃について、飲食店の6社(75.0%)と小売店の1社が3期連続で不変であった。
- ・なお、飲食店2社は、自家所有との理由から経理上の家賃の認識をしていなかった。

⑤ 資金繰り

- ・3期連続で資金繰りが好転した飲食店は1社(2.8%)、小売店は1社(6.7%)社であった。
- ・一方、3期連続で資金繰りが悪化した飲食店は6社(16.7%)、小売店は1社(6.7%)社であった。

## (2) 事業者の課題の可視化

我々小規模事業者は、「外部環境」という いわば「大海」の波間を漂う「小舟」にすぎない。その中で、自らの判断により光明を探し続けることが、我々事業者に課せられた責任である。足元の業況が良ければ良いなりに、悪ければ当然のごとく、我々は常に課題を抱えている。

### ① 売上

- ・3期連続で売上が増加した飲食店は7社(19.4%)、小売店は3社(20.0%)社であった。なお、このうち飲食店の1社と小売店の2社は、客数・客単価が共に3期連続上昇している。

	増加	不変	減少	凸凹	計
飲食店	7	7	12	10	36
	19.4%	19.4%	33.3%	27.8%	100.0%
小売店	3	2	5	5	15
	20.0%	13.3%	33.3%	33.3%	100.0%

### ② 経常利益

- ・3期連続で経常利益が増加した飲食店は5社(13.9%)、小売店は1社(6.7%)社であった。
- ・一方、3期連続で経常利益が減少した飲食店は12社(33.3%)、小売店は4社(26.7%)であった。

	増加	不変	減少	凸凹	計
飲食店	5	9	12	10	36
	13.9%	25.0%	33.3%	27.8%	100.0%
小売店	1	4	4	6	15
	6.7%	26.7%	26.7%	40.0%	100.0%

- ・なお、3期連続で経常利益が増加したこれら6社全社で、3期連続 売上が増加している。

### ③ 各社の業況

- ・3期連続で業況が好転した飲食店は5社(13.9%)、小売店は1社(6.7%)社であった。
- ・一方、3期連続で業況が悪化した飲食店は8社(22.2%)、小売店は2社(13.3%)であった。

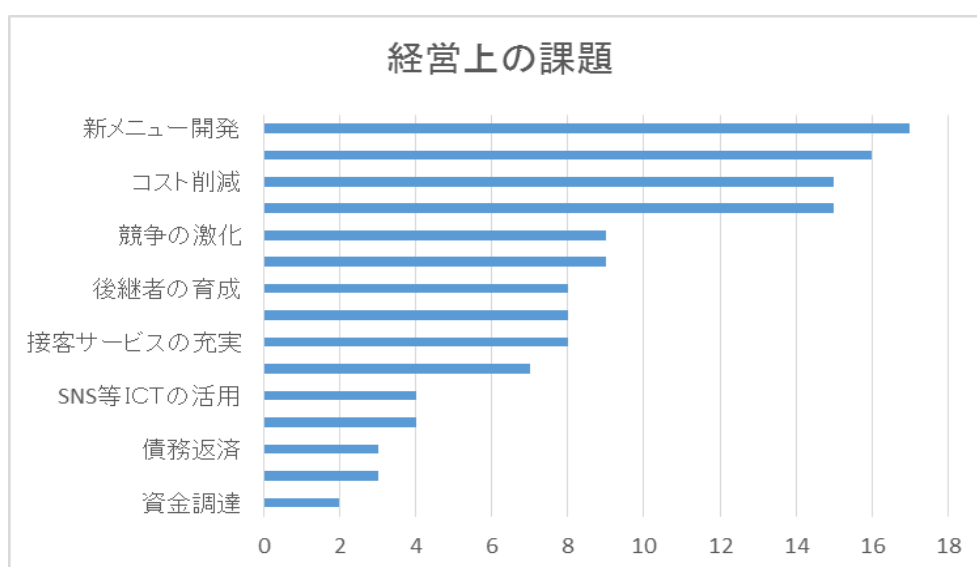
	好転	不変	悪化	凸凹	計
飲食店	5	10	8	13	36
	13.9%	27.8%	22.2%	36.1%	100.0%
小売店	1	6	2	6	15
	6.7%	40.0%	13.3%	40.0%	100.0%

#### ④ 設備投資

- ・3期連続で経常利益が増加した6社（飲食店5社、小売店1社）の内5社（83.3%）は、前期／当期／来期のいずれかの時期において設備投資を行っている。
- ・3期連続で経常利益が減少した16社（飲食店12社、小売店4社）の内7社（43.8%）は、前期／当期／来期のいずれかの時期において設備投資を行っている。
- ・3期連続で経常利益が不変とした13社（飲食店9社、小売店4社）の内6社（46.2%）は、前期／当期／来期のいずれかの時期において設備投資を行っている。

#### ⑤ 経営上の重要な課題

以下の選択肢から、各事業者が「重要性の高い順に3つまで」選択した。  
結果は次のとおり。



### 3. 個々の事業者データを踏まえての、コンサルタントからの助言

#### ◎ 各事業者は、『自分の姿』が見えているのか？

- (1) 各事業者が認識している「経営課題」が、その事業者の「経営実態」と合致している、とは思えないものが多々見られた。

例えば、「経常利益」が3期連続減少しているにも拘わらず、「貴社の業況」を「不変」と評価する事業者が3社ある一方、「経常利益」が3期連続増加しているにも拘わらず、「貴社の業況」を「不変」と評価する事業者が1社あった。

(2) 人件費を計上せずして「事業」と言えるか？

(3) 自己所有店舗のため「家賃無し」と考えるのは、特に飲食店の経営上、妥当なのか？

(4) なぜ仕入れ先を変えないのか？

原価単価が3期連続上昇し、経常利益が3期連続減少していても「仕入れ先数」が3期連続不変の事業者が6社あった。

(5) 今、どこに経営資源を注ぐべきなのか？

以上を自問自答していただければ幸いです。

以 上